

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立宮古西中学校	TEL	0193-62-4643
------	----	-----	------------	-----	--------------

「わかる授業」を提供するための授業実践

【ねらい】

- ・ 「わかる授業」を提供することで生徒たちの学習意欲を高め、基礎基本を定着させる。

【具体的な取組】

(1) 日常の取り組み

本校では全教科で次のような取組を行っている。

- ・ 授業の見通しをもたせるための課題提示を工夫する（「達成プレート」の活用）
- ・ 学習の流れを提示し、学習の見通しをもたせる
- ・ 本時の学習課題が理解できているかを評価し、まとめをする（課題に対応したまとめ）
- ・ 言語活動を生徒の理解度を量る指標とする

達成プレートとは本時の授業課題を示すためのボードであり、本校では特別教室を含め全教室の黒板に設置している。このプレートの活用により、生徒が本時の課題を意識できるよう全教科で取り組んでいる。

学習課題の明示、授業の流れの提示により、「今の学習が何であるのか」「何のための学習なのか」「次の活動にどうつながるのか」を生徒が意識できるようにすることで、毎時の授業が「わかる」と思えるような工夫をしている。

学習内容の定着を高めるため、週末には各教科で課題を出している。未提出者、再提出者は月曜の放課後に補充指導するなど、宿題をやりきる指導を徹底している。

(2) 岩手県学習定着度調査の分析

平成25・26年度岩手県学習定着度状況調査の結果 ～ 県平均と本校平均のポイント差 ～

《第1学年》

		国語	数学	英語
H25	県平均	65.1	63.5	68.8
	本校平均	+1.8	+0.9	+5.2
H26	県平均	56.1	63.0	
	本校平均	+5.1	+3.0	

《第2学年》

		国語	社会	数学	理科	英語
H25	県平均	68.7	53.7	55.2	62.4	48.9
	本校平均	+5.2	-1.7	+1.1	+3.6	+6.3
H26	県平均	62.9	49.0	54.8	55.8	52.4
	本校平均	+3.0	+4.3	+5.0	+4.8	+6.9

- ・ 平成26年度は、全教科とも県平均を上回っている。2学年は平成25年度よりも県平均との差を広げている。
- ・ 各教科の得点分布がいくつかの得点群に集団化している。得点の下位群を引き上げていくことが必要である。

《質問紙から》

質問紙から(値はすべてパーセント、学習時間以外は選択肢1・選択肢2の和)				
質問	1年		2年	
	本校	県	本校	県
学校での勉強が好きですか	63	64	31	51
勉強は大切だと思いますか	98	98	97	97
学校の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94	96	90	91
学校の授業以外で一日にどのくらい勉強しますか	ほとんどしない	0	2	5
	0～30分	1	4	9
	30分～1時間	10	19	41
	1時間～2時間	57	52	35
	2時間～3時間	32	20	8
	3時間以上	0	3	2
学習が大切だ(必要だ)と思いますか	国語	95	96	90
	数学	95	95	88
	社会	90	90	84
	理科	91	87	69
	英語	88	91	94
授業の内容はよくわかりますか ★()は「よくわかる」の割合	国語	93 (41)	89 (35)	78 (17)
	数学	87 (42)	81 (39)	71 (26)
	社会	85 (26)	84 (40)	86 (45)
	理科	96 (65)	85 (42)	73 (25)
	英語	64 (20)	75 (34)	79 (31)
	平均	85 (38.8)	82.8 (38)	77 (28.9)
普通の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を確認していると思いますか	92	81	88	83
普通の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。	80	75	81	70

・学習の必要性は理解しているが、家庭で学習する時間は多いとは言えない。2年生に学習時間1時間以下の生徒50%以上いることが気になる。授業がわからない、勉強がきらい、とつながっているのではないか。

・「よくわかる」「わかる」の割合は1年生85%、2年生77%とおおむね良好といえる。しかし、「よくわかる」の割合が県平均と比べて低い教科が多い。授業が「よくわかる」「わかる」の割合を80%以上まで引き上げるとともに、「よくわかる」の割合を40%まで引き上げたい。そのためにも、授業最初の目標を確認すること、授業最後の振り返りを確実にすること、を各教科で徹底していく必要がある。

・「授業の最初の目標を確認すること」「授業の最後の振り返りを確実にすること」は100%に近づけたい。

(3) 岩手県学習定着度調査の事後指導

- ① 調査結果を各教科担任が分析し、何が定着していないのかを明確にする。
- ② 正答率50%以下の問題を重点に事後指導を行い、正答率を全問50%以上まで引き上げる。
- ③ 今までの授業実践における成果と課題を把握し、今後の授業改善点を明確にする。

(4) 「わかる授業の提供」のための授業改善

岩手県学習定着度の結果を受け、各教科では次のように授業改善していく方針である(1年の理科・社会・英語については質問紙の結果だけからの分析)。

	1年	2年
国語	・日常生活の中での指導を取り入れていく。特に、文法については活用を意識させ書かせる指導をしていく。	・文学的文章の教材は限られているが、心情を把握するための視点を具体的に提示することで、読み取りのポイントを明確にする。
数学	・どの領域でも小学校での既習内容を確認し、モデルステップで進めるよう工夫する。 ・授業と家庭学習の課題をサイクル化し、学習内容の定着を図る。	・どの領域でも既習内容を確認し、基本の問題も問題数を多く解かせるよう工夫する。 ・初見の問題を解かせる機会を増やし、自力解決させる手立てを工夫する。

社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる」を増やすため、まずは子どもたちが「何をもってよくわかる」と判断しているのか（テストの点数、その授業の内容、情意的なもの、その他）を把握する。地図（地形・地形）、年表など基本的事項については、反復練習することで「わかった」と感じることを重ねていく。資料提示や学習課題を工夫し、知的好奇心が持続するよう努め、理解を深めることにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りを増やし、資料との比較や関連づけについて考える学習を繰り返す。 ・歴史の大まかな流れを確認させながら、共通点や大きな変化をつかませる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の評価規準を生徒に示し、生徒自身が評価できるようにする。 ・「授業のまとめ」はできるだけ文章で記述させていく。自分の力で「わかった」ことを体験させていく。 ・「授業のまとめ」につながる課題を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語や基礎的な知識を確実に理解できるよう、繰り返し確認する場面や既習事項の確認を取り入れていく。 ・授業で何がわかればよいかをはっきりと示し、まとめで必ず確認する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業のまとめ」から「書き取り練習」→「定着」となるための方法を、家庭学習や宿題を含めて工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文を読む機会を増やす。 ・自己表現の中で基本の単語を正しく使うよう工夫する。また、計画的に使うよう指導する。 ・学習課題は「～できる」の語尾で、引き続き指導していき、達成度を生徒と共有していく。

【成果】

(1) 「学習課題」「課題に対するまとめ」を明確していくことを全教科で実践していくことにより、「わかる授業」を提供できる教科が増えてきている。その結果が、岩手県学習定着度調査の結果が、全学年・全教科とも県平均点を上回っていることにつながっていると考えている。

質問紙の結果では、「授業の内容がよくわかりますか」の質問に対して「よくわかる」「わかる」の割合が、1年生で88.4%、2年生81.2%となっており、平均値が80%を超えている。今後は全教科で80%を超えることを目標に授業改善を進めていく。

(2) 岩手県学習定着度調査の結果から、各教科では今年度の授業改善の成果は次のように捉えている。

《実施教科のみ》

	1年	2年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む力」「書く力」を高めることを意識して取り組んできた成果が出ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに関しては県平均を大きく上回った。授業や定期テストで書く問題を意識的に出題し、書く際のポイントを提示してきた成果である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式の領域において県平均より4ポイント上回っているため、基本的な計算力が身についている。 ・週末課題として問題集に取り組むことで、学習内容が定着していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数は1年次、2年次ともに、安定して平均より高いポイントである。1年次同様に、表・グラフ・式を常に対処させて取り組ませた成果である。
社会		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本となる重要語句や知識は、ある程度定着させることができた。
理科		<ul style="list-style-type: none"> ・2年生で学習した内容については定着している。授業の流れを明示するよう努めてきた成果である。
英語		<ul style="list-style-type: none"> ・input から output になるように授業を進めることができた。また、自己表現の機会を作ることにより、表現の力を向上させることができた。